

2011年4月8日、多くのロータリアンに尊敬された中川章三PGが90歳の生涯を終えられました。

1969年大阪西南、阪南、西北、城南の4クラブ合同チャーターナイトで祝福されて、Rtになった中川さんと私でした。同じ医師としてRで活躍することになりました。

数年が経過し、西北RCの武尾氏、西南RCの廣瀬氏、阪南RCの中野氏と同級生クラブから、Gが選出される結果となりました。順序からして、城南RCからGを出さないわけにはゆかない状況になって来ました。当クラブの大山会長が、Gの就任を引き受けても良いという事になり、小生に代表幹事の役を求められた。これでクラブとしての面目が立ったと全員で喜んだのも束の間で、大山会長が病で急逝されてしまった。クラブは混乱に陥り、誰が後任になるのか全く候補者の無い状態となったのでした。

全員が逃げ腰で、代表幹事としては、途方に暮れた毎日でした。順序で一人一人に当たっていった時、中川さんの番が廻ってきた時、色々と話をする内、彼の犠牲的精神が一言やってもよいとの答を出してくれたのではないかとと思っています。好んでやりたくはないが、何かやむにやまれぬ気持ちが起こりクラブの現状を考え引き受けられたのではなかったかと思っています。正に犠牲的精神の発露だと感じています。

Gの仕事は、自分の事だけでは済まされない特別な環境で、家庭を犠牲にせねばならない事も多々ある事は、十分認識してかからなければならない。こんな事を思うと中川さんの行動は正にserve above self と云うことではないかと、今更ながら頭の下る思いです。

早速G研修で渡米され、みっちりと修練され帰国後は、不慣れなため色々苦労された事を思い出します。当時は今と違ってGが代わる度に事務員も代わり、酷い時には全員が未経験者の事もあり、事務局は一代毎に代わり、Gが雇用せねばならなかった。事務長の仕事はGと代表幹事がすることになり、仕事に忙殺されるのである。中川Gは慣れないのに、事務的な文書に一枚一枚目を通し、直接指示され事務員のエラー、Rtからの苦情等一手に引き受けられた。寡黙で勤勉なGでありました。

PGになられてからは、家内に迷惑をかけた分を取り返すのだと、女房孝行をされて居られたのを拝見し、彼の優しい反面を見せられた思いがします。体調も良かったのに、風邪がもとで肺炎を併発され急逝され、本当に残念でなりません。永いロータリーライフ、御苦労様でした。どうぞ安らかに眠りください。

合 掌



中川 章三 会員

- ・生年月日 大正11年6月16日
- ・学 歴 1945年 3月 大阪高等医学専門学校卒業
12月 大阪高等医学専門学校および
大阪医科大学小児科教室助手
- ・職 歴 1960年 12月 医学博士学位記授与(大阪市立医科大学)
- 1952年 5月 南大阪病院小児科長
- 1959年 7月 大阪市立城北市民病院 小児科医長
- 1964年 4月 大阪市立城北市民病院 小児科科長
- 1976年 4月 大阪市立十三市民病院 小児科科長
- 1982年 4月 大阪市立十三市民病院 第2診療部長
- 1983年 6月 大阪市定年退職
7月 協和会加納・北大阪病院小児科部長
- 1985年 10月 関西女子短大 講師
- 1994年 12月 協和会病院、関西女子短大 退職
- ・賞 1964年 大阪市医学会 市長賞
表彰「砒素中毒についての研究」
- ・ロータリー歴 1969年 5月30日 大阪城南RC チャーターメンバー
1971～1973年度 理事(国際奉仕委員長)
1976～1977年度 幹 事
1981～1982年度 会 長
1987～1988年度 理事(社会奉仕委員長)
1987～1988年度 IGFフォーラム委員長
1996～1997年度 国際ロータリー第2660地区ガバナー